

地域と連携し身近な 病棟をめざす

西が岡の国際親善総合病院（安藤暢敏病院長）は、減らし、苦悩や希望に寄り添うため、医師や看護師のこのほど緩和ケア病棟で日常のサポートをするボランティアの募集を始めた。

昨年9月に開棟した緩和ケア病棟は、患者の痛みや不快な症状を緩和し、その人らしい生き方を支援する場所。患者や家族の負担を

減らし、苦悩や希望に寄り添うため、医師や看護師のほか、専門職のスタッフが日々ケアにあたっている。病棟として見据えるのは「地域との連携を生かした身近な病棟」。看護課長の三堀いずみさんは「地域連携には、ボランティアさんの力が大きい。ぜひ多くの



協力を呼びかける三橋さん（左）と三堀看護課長

方に力になって頂きたいが、そのためには、受け入れる側の体制が整っていることが必要」と話す。その取り組みの一つとして、同院は今年度から職員としてボランティアコーディネーターの三橋佐和子さんを配置。これにより、病院とボランティアの調整役が明確となり、受け入れやすい状況が整った。専任の職員がいることで、病棟で求められるニーズの洗い出しや病棟の一層の質向上に向け、必要な環境整備など多くの気づきが生まれているという。

今回、同院が募集するボランティアの主な活動は、植物の手入れや入院時などのお茶の提供、季節の行事の手伝いなど。三橋さんは「病氣と向き合うだけでなく、入院生活が心穏やかなものとなるよう、地域の方に参加を頂ければ」と話す。ボランティアの詳細は同院ボランティアコーディネーター三橋さん ☎045・813・0221。